

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(令和5年度分)

令和6年8月

南部町教育委員会

【目次】

第1 点検・評価制度の概要	1
1. 事務の点検・評価の考え方	1
2. 事務の点検・評価の方法	1
3. 事務の分類と評価	1
第2 事務事業ごとの点検・評価	2
I 教育委員会の活動	
1. 教育委員の構成	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 委員会議の開催状況	2
(2) その他の活動状況	3
II 教育委員会が管理執行する事務	3
III 各課の事務の点検及び評価の結果	4～30
1. 学校教育環境の充実（学校教育課）	
(1) 学校教育施設・環境の整備	4～11
(2) 学校教育内容の充実	11～12
(3) 教育支援センター事業の実施	13～15
2. 生涯学習の充実（生涯学習課）	16～18
3. 文化の振興（生涯学習課）	19～20
4. 公民館・文化ホール事業（生涯学習課）	21～23
5. アルカディア文化館（生涯学習課）	
(1) 南部図書館・富沢図書館	24
(2) 町立美術館	24～25
6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）	
(1) 施設の充実と効果的な活用	26～27
(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化	27～29
(3) 組織の充実と連携	29～30

第1 点検・評価制度の概要

1. 事務の点検・評価の考え方

南部町教育委員会では、学校教育、生涯学習、文化、スポーツ・レクリエーションなどの分野で様々な施策に取り組んでいますが、これらの施策を充実させる上で各施策の進捗状況や町民の皆様及び関係各位の意見を踏まえることは非常に重要なことです。また、政策効果を把握し、必要性、効率性等の観点から自ら評価を行い、その結果を公表することは、住民に対する説明責任を果たす上で重要なことです。

このようなことから「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、自らの権限に属する事務の管理及び執行について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、町民に公表する取り組みを平成 20 年度から実施しています。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務「前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。」の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 事務の点検・評価の方法

令和 5 年度に南部町教育委員会並びに教育委員会各課において執行された事務事業について、教育委員会内部で点検評価する。

3. 事務の分類と評価

教育委員会所掌の事務事業を次のとおり 3 分類する。

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理執行する事務」
- III 「教育委員会各課の執行する事務事業」

◇ 達成度の評価

「III 教育委員会各課の執行する事務事業」について、達成度を 5 段階で評価する。

- 5 極めて満足である (順調に達成している)
- 4 満足である (概ね順調に達成している)
- 3 普通 (達成見込みだが若干課題がある)
- 2 不満足である (順調でない)
- 1 極めて不満足である (達成しなかった)
- 評価しがたいもの

第2 事務事業ごとの点検・評価

I 教育委員会の活動

1. 教育委員の構成

南部町教育委員（ 2023 年 5 月 10 日～ 2024 年 3 月 31 日）

職 名	氏 名	任 期	備 考
教 育 長	入 月 一 巳	2021 年 4 月 1 日 ～2024 年 3 月 31 日	教育長就任 2021 年 4 月 1 日
教 育 長 職務代理者	望 月 正 宏	2023 年 5 月 10 日 ～2027 年 5 月 9 日	教育長職務代理者就任 2023 年 5 月 10 日
委 員	山 本 純 司	2020 年 4 月 1 日 ～2024 年 4 月 30 日	
〃	望 月 聡 美	2021 年 5 月 1 日 ～2025 年 4 月 30 日	
〃	渡 邊 正 志	2022 年 5 月 10 日 ～2026 年 5 月 9 日	

2. 教育委員会の活動状況

(1) 委員会議の開催状況

南部町教育委員会の会議は原則として公開する。また、毎月 1 回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催する。

この会議において、5 名の教育委員（教育長 1 名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則等の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けている。

令和 5 年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

会 議	開催日	議案	協議・報告	その他
令和 5 年 定例会 第 4 回	4 月 7 日	3	1	7
〃 第 5 回	5 月 10 日	2	3	3
〃 第 6 回	6 月 8 日	1	1	5
〃 第 7 回	7 月 10 日	1	2	5
臨時会 第 1 回	7 月 31 日	1	1	0
定例会 第 8 回	8 月 22 日	2	1	4
〃 第 9 回	9 月 26 日	2	1	3
〃 第 10 回	10 月 17 日	0	2	4
臨時会 第 2 回	10 月 23 日	0	1	0
定例会 第 11 回	11 月 24 日	1	4	4
〃 第 12 回	12 月 21 日	1	5	4
令和 6 年 〃 第 1 回	1 月 22 日	4	4	4
〃 第 2 回	2 月 19 日	1	4	4
〃 第 3 回	3 月 13 日	0	1	4
合 計		19 件	31 件	51 件

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に、各会議、関係行事等へ出席している。
なお、平成27年度より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、南部町総合教育会議が設置され、令和5年度は3回の会議が開催された。その他主な活動は次のとおりである。

- ・山梨県町村教育長会 ・山梨県教育委員会連合会
- ・峡南地区教育委員会連合会 ・峡南地域教育推進連絡協議会
- ・各小中学校入学式 ・卒業式
- ・各小学校運動会 ・中学校学園祭
- ・学校訪問 ・管理主事訪問 ・教育を語る会要望書提出
- ・はたちのつどい
- ・その他各種イベント事業への出席

Ⅱ 教育委員会が管理執行する事務

教育委員会が管理執行する事務は南部町教育委員会事務委任規則に規定されている。
令和5年度に管理執行した事務については下記のとおりである。

(1) 教育委員会規則及びその他の重要な規定の制定及び廃案すること。

規則の制定・改正・廃止

南部町アルカディア南部総合公園文化館規則の一部改正

要綱・規程の制定・改正・廃止

南部町入学祝金支給要綱の全部改正

(2) 教育予算その他の議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。

条例の制定・改正・廃止

なし

予算

令和5年度6月補正予算、令和5年度9月補正予算、令和5年度12月補正予算
令和5年度3月補正予算、令和6年度当初予算

(3) 教育委員会の所管する各種委員会の委員の任命及び委嘱に関すること。

学校運営協議会 委員30名

社会教育委員協議会並びに公民館運営審議会 委員13名

スポーツ推進審議会 委員6名

美術館運営審議会 委員6名

文化財保護審議会 委員5名

Ⅲ 各課の事務の点検及び評価の結果

1. 学校教育環境の充実（学校教育課）

（1）学校教育施設・環境の整備

① 学校施設環境整備事業

* 事業概要

- ・小中学校に学校図書の整備を行った。

* 成 果 [評価 4]

[小中学校施設の学校図書の整備]

- ・睦合小学校 892,000円 (図書444冊 CD 0枚 DVD 9枚)
- ・栄小学校 668,981円 (図書418冊 CD 0枚 DVD 6枚)
- ・富沢小学校 724,770円 (図書444冊 CD 0枚 DVD 9枚)
- ・南部中学校 1,020,319円 (図書412冊 CD 0枚 DVD 5枚)

* 課 題

学校図書の購入については、限られた予算の中で計画的に進める必要がある。

② 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業（スクールガードリーダー）

* 事業概要

子どもたちが安心して教育を受けられるよう、家庭や地域の関係機関・団体と連携しながら、学校の安全管理に関する取り組みを実施することを目的とする。

本町では、平成17年より1名のスクールガードリーダーを委嘱し、小学校3校に対して登下校の際の子どもへの指導、見守り隊への指導、通学路の安全確認等を実施している。スクールガードリーダーは、主として学校周辺を登校時間帯及び下校時間帯にそれぞれ2時間程度、3小学校を曜日変わりで巡回している。

- ・スクールガードリーダー報償費 193,050円

* 成 果 [評価 4]

事業を開始してからは特に問題等は起きておらず、交通事故防止、犯罪抑止など事業効果は大きい。また、地域や保護者、スクールサポーターと連携し登下校における安全確保の取り組みが進んでいる。

* 課 題

今後も子どもたちの安全確保のため事業を継続していくが、小学校の見守り地域が広範囲に及ぶため、各校の見守りボランティアと連携するとともに、通学路付近の住民に「ながらパトロール」の依頼をするなど、全町的に効率的な見守りを行うことに努める。

③ 日本スポーツ振興センター災害給付金事業

* 事業概要

各小中学校に在学する児童生徒の不慮の災害に備えて、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済給付契約を結び、学校の管理下において児童生徒が災害に遭った場合、その治療費や見舞金の給付を保護者に対して行う制度。町では全校児童生徒がこの制度に加入しており、その共済掛金は町が負担している。

- ・ 共済掛金合計額 329,120円（対象：小学校222人、中学校131人）
- ・ 実績（給付金合計）217,343円（対象：小学校10件、中学校13件）

* 成 果 [評価 5]

町では医療費助成制度により、18歳まで無料化されているが、この災害給付金制度では療養に伴って要する費用として加算される分（1/10）があり保護者にとっては有利である。学校でもその点を説明し、この制度の利用に努めている。

* 課 題

各学校では児童生徒や保護者にスムーズな手続きが取れるよう説明や周知を行っているが、事務処理の関係により年間を通してみると給付までに時間を取ってしまうケースがいくつかあるため、より迅速な対応に努めていく。

④ スクールバス・タクシー運行事業

* 事業概要

南部中学校において、富河・万沢・井出・十島地区の生徒を対象にスクールバスを運行する。小学校については、居住地が遠く離れている井出・十島・万沢地区の児童及び通学路（国道）が危険な楮根地区児童も、スクールバスで送迎している。陵草地区の児童については、タクシーで送迎をしている。

- ・ 総事業費 23,139,571円
(内 訳)
- ・ 運行委託料
 - スクールバス 17,415,200円
 - タクシー 1,635,300円
- ・ 修繕料 1,978,696円
- ・ 燃料費 2,110,375円

* 成 果 [評価 4]

教育委員会、学校、運行委託業者がスクールバスの運行に対して協議を行うスクールバス調整会議では、成果や課題等共有することで、安全に配慮したより良い運行につなげることができている。

また、新入学の児童生徒に対して、スクールバス・町営バス・タクシーの乗降場所時刻、座席の位置や注意事項等の確認を行う乗車訓練を行うことで、児童生徒が新年度に安心して通学できる準備を整うことができた。

- 1) 南部中学校の生徒の輸送
 - ・ 富河地区 31名、万沢地区 17名、井出・十島地区 7名
- 2) 富沢小学校の児童の輸送
 - ・ 万沢地区 31名（内陵草地区3名）、楮根地区 6名
- 3) 栄小学校の児童の輸送
 - ・ 井出地区 3名、十島地区 3名

* 課 題

すべての児童生徒が安全かつスムーズに登下校できるよう運行時間、運行ルート、乗降場所等の調整を図る。

また、新小学校統合に向けて、栄小学校区児童のスクールバスの乗降場所等の運行計画を、睦合小学校区児童の通学支援対象者とスクールバスのみならず町営バスの利用も

含めた通学方法について、安全面と通学距離を考慮し方針を決める。

⑤ 学校給食共同調理場運営事業

* 事業概要

平成25年4月に2つの調理場を統合し、南部町学校給食共同調理場をスタートさせ、調理の集中化による効率化を図るとともに衛生面の充実に努めている。

学校給食は、安心して安全な、そして、衛生面にも十分配慮した美味しい給食を提供することにより、子どもに望ましい食習慣を身につけさせることを目的にしている。

しかしながら、昨今の賄食材の相次ぐ値上げに対して、学校給食運営委員会において、給食費の値上げを検討し、一食当たりの賄食材単価を小学校317円、中学校370円と約10%引き上げることとなった。

なお、令和2年度から児童生徒の学校給食費を無償化とし、保護者が負担する給食費を免除することにより、保護者の経済的負担の軽減を図り、町民の子育て支援につながっている。

また、令和5年度は、耐用年数を経過し老朽化が著しい大型調理備品等（給食配送用コンテナ南中用2台・ガス回転釜・業務用冷蔵庫・調理作業台2台）の更新をした。

1) 学校給食の運営費

歳入決算額

4,461,550円（教職員・非常勤講師・調理員）

歳出決算額

62,374,908円（内、賄材料費28,000,406円）

2) 学校給食の提供

年間提供日数	小学校：200日	中学校：199日
1日当たり	小学校：270食	中学校：150食
年間食数	小学校：54,197食	中学校：29,861食

* 成果〔評価 5〕

令和2年度から児童生徒の学校給食費を無償化し、保護者の経済的負担の軽減を図り、引き続き町民の子育て支援を継続していくことに取り組んでいる。

食材については地産地消を取り入れ、峡南地域のJAの協力のもと季節感や風習に因んだ郷土料理やたけのこ、大塚ニンジン、あけぼの大豆などの旬の野菜等を献立に加え、献立内容の充実に努めている。

また、1月の学校給食週間の企画では、昭和の時代の給食メニューを取り入れ、大きなコッペパン・鯨肉の竜田揚げ・脱脂粉乳など提供し、いつもとは違う味を再現した。

* 課題

毎回、約400食以上を調理、配送することになるので適切な人員を配置するとともに、調理場では下処理、調理、配送に至るまでスムーズな作業ができるよう効率的な体制づくりに努めているが、調理業務の約4割を非常勤職員が担っている現状では、非常勤職員が人員不足になることも予想される中で大変厳しい状況である。安定的に学校給食を提供していくためには、一定数の常勤の調理員が必要となる。

道の駅とみざわを利用して、地産地消の推進をしているが、品質・規格の管理の面で調達が難しい面もある。また、異常気象により、野菜等の給食食材の高騰による給食の質や量の低下を生じさせないよう献立等を工夫していく必要がある。

⑥ 要保護及び準要保護児童生徒への就学援助事業

* 事業概要

経済的理由等により就学が困難な児童生徒の保護者に対し、学校で必要な費用(学用品費、修学旅行費等)を、認定基準額(所得の金額)に応じて認定審査を行った上、支給する。

区 分	受給者	援助額
睦合小(準要保護)	6 人	138,640 円
栄 小(〃)	1 人	49,090 円
富沢小(〃)	11 人	206,470 円
南部中(〃)	9 人	310,015 円
計	27 人	704,215 円

◇準要保護者:児童扶養手当受給者

(20世帯27人)

◇要保護者:生活保護で対応
(0世帯0人)

* 成 果 [評価 4]

対象者に対しては、民生主任児童委員等と連携し申請漏れのないように手続きの勧奨を行っている。ひとり親家庭に対する経済的支援の効果は大きい。

* 課 題

前年比受給世帯は減少、援助額は167千円の減少となった。援助を必要とする児童生徒(母子、父子家庭)には漏れなく手続きの勧奨を図る。

⑦ 心の教室相談事業

* 事業概要

心の教室相談員を中学校に配置し、適切な教育相談や基本的な生活習慣等の指導を行い、生徒の悩みや不安、ストレスを解消する。

* 成 果 [評価 4]

より身近なところに相談できる場があり、生徒達の悩み、不安、ストレスが和らぎ、心にゆとりを持てるようになることは、生徒が充実した学校生活を送ることに繋がっている。また、相談員は学校や関係機関との連携役を担っている。

* 課 題

相談員は、生徒が抱える諸問題について、担任、養護教諭、関係機関、教育委員会との連携が求められる。

⑧ 学校運営協議会事業

* 事業概要

平成28年度に南部中学校、令和2年度からは町内全ての小学校でも学校運営協議会をスタートさせた。学校運営協議会は、保護者及び地域住民の学校運営への参画や連携を図ることを目的とし、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。

* 成 果 [評 価 5]

町内全ての学校で、学校運営協議会を設置し4年目となり協議会を通して、地域の声を教育活動に反映させることができた。学校と地域との相互理解を図る上で、協議会は効果的な機能を果たしている。あいさつビンゴや中学生の自主防災組織等の取組は地域の活性化や地域への貢献活動として、地域とともにある学校づくりをさらに発展させる取組となった。

各協議会の代表者等を集めた全体会議等を開催し、情報交換等を通じて、各学校の課題や取り組み内容、運営について協議することができた。会議の内容については、学校だよりを通して地域の方に会議内容の一部を公開できている。

* 課 題

4校の学校運営協議会の代表者が集まって年1回全体会を開催している。各運営協議会の運営方法や成果と課題等について情報交換を行い、より良い事業としたい。

⑨ 小学校適正配置事業

* 事業概要

教育委員会では、平成28年3月に「南部町立小学校適正配置に関する具申書」をまとめ、具申書の内容についての合意形成を図り、令和2年4月に富河小と万沢小を統合し、富沢小学校を開校した。開校後の令和3年6月に、富沢小学校の児童と保護者に実施したアンケート調査では概ね前向きな意見が得られ、4年目を迎えた同校では、今年度も一丸となって新しい文化と伝統づくりに取り組んでいる。

一方、睦合小学校と栄小学校の統合については、具体的方策を盛り込んだ「南部地区小学校の適正配置に関する具体的方策案」を令和5年3月にまとめた。適正配置は、集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで思考力や表現力、判断力、問題解決能力を身に付け、さらに自ら課題を発見し主体的に学び合う協働的な学習が可能となるよう、より良い教育環境を整えるために実施するものである。そのため、児童や保護者、町民の理解を得て、計画どおり令和8年4月を目途に適正配置を行う。

* 成 果 [評 価 5]

南部地区小学校の適正配置につきまして、教育委員会では、令和5年3月に、「南部地区の小学校の適正配置に関する具体的方策案」をまとめてから、6月には保護者の方や地域の方を対象にした説明会を開催するとともに、資料の全戸配布、積極的な情報公開など、教育委員会の考える方針をご理解いただくために取り組んだ。その後、9月にアンケート調査を実施し、調査結果についても報告会を開催した。これらの一連の経過を踏まえ、合意形成がなされたとの判断から、令和6年1月に睦合小学校と栄小学校の統合については、令和8年4月1日を持って実施することを決定した。令和5年度の事業経過は次のとおりである。

- 令和5年6月
 - ・南部町議会第2回定例会一般質問答弁及び全員協議会で説明
- 令和5年6月～7月
 - ・保護者・住民説明会開催 全4回開催 96人参加
 - ・具体的方策案ダイジェスト版の作成及び全戸配布（町内全世帯）
- 令和5年8月
 - ・アンケート実施（南部地区全世帯）9月末まで
- 令和5年11月

- ・南部地区小学校の適正配置に関する学校関係者説明会
- ・南部地区小学校の適正配置に係る町報告会
- ・アンケート集計結果を町民へ周知（ホームページ・12月広報）

アンケート結果（概略）

- ★ 回答状況 配布数：1,613件(南部地区)
回答数：794件 回答率：49.2%
- ★ 回答結果
 - ① 「理解できた」 481件（60.6%）、
 - ② 「ある程度理解できた」 274件（34.5%）
 - ③ 「あまり理解できなかった」 21件（2.6%）
 - ④ 「まったく理解できなかった」 7件（0.9%）
 - ⑤ 「未回答」 11件（1.4%）
 - * 「①+②」 755件（95.1%）

- ・議会全員協議会で統合経過説明
 - 令和5年12月
 - ・南部地区小学校の適正配置 Q & A 公開
 - 令和6年1月
 - ・町長が統合決定（FM告知端末・1月、3月広報で周知）

* 課 題

令和5年度に統合についての合意形成が図られたため、統合までの残り2年間で円滑に進める必要がある。令和6年度当初に南部地区新小学校統合準備委員会を設置する。この準備委員会の委員は、睦合・栄の両校区の小学校保護者、保・幼保護者、学識経験者、学校管理職の代表から構成する。準備委員会では、校名、服装・通学方法、校歌、校則、教育課程（カリキュラム）などを協議し教育委員会へ提言する。また、準備委員会の協議内容や統合の進捗状況について町民の方々にお知らせするため、南部地区新小学校設立準備委員会だよりを随時発行する予定である。

校名は、本年11月までには決定し、条例改正等必要な手続きを行う。校舎改修については、統合後の校舎は睦合小学校を使用するので、睦合小学校の校舎について必要な改修を行う。令和6年度に設計、令和7年度に改修工事を行う。通学支援については、栄小学校区の児童は、スクールバスでの通学を想定し、運行方法やどのようなスクールバスを購入するか検討する。なお、校旗・校章については、統合後に児童にデザインなどを考えてもらって作成する予定である。

⑩ GIGA スクール構想事業

* 事業概要

GIGA スクール構想とは、児童生徒向け1人1台端末と、高速大容量の情報通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを学校現場で持続的に実現させる計画。令和2年度に各学校内の情報通信ネットワーク整備、児童生徒1人1台端末の基盤整備を行った。令和3年度以降はユーザー管理システム、授業支援システム、ドリルソフトの導入やWi-Fi追加による通信環境の改善と教師用端末の購入等、ソフト面とハード面の整備を順次行っている。

* 成 果 [評価 4]

小学1, 2年生にも1人1台端末として Chromebook が行き渡り、すべての児童生徒が同一の端末使用できる環境が整った。

令和5年度から児童の主体的な学びを支援するために、ドリルソフトを導入した。(中学校は令和6年度から) 個に応じた出題で、一人ひとりのつまずきを解消し、自学自習を後押しし、学習習慣の確立や基礎学力向上につながる。教師側からすると、ドリルに取り組んだ児童の状況が可視化され、復習が必要なポイント、つまずきが多い箇所等ひと目で把握することができ、教師の指導の一助となっている。

- ・小学1, 2年生分 Chromebook リース 482,090円 (令和5年度支払い分)
(5年リース合計金額: 4,132,200円)
- ・小学校ドリル学習ソフト使用料 850,300円

* 課 題

ICT を活用した授業支援としてデジタル教科書、ドリルソフト、MEXCBT、まなびポケット等様々なツールが導入されている。学校、ICT 支援員、教育委員会間で情報共有しながら、今後はいかに効果的に利活用していくかについて協議をし、教員間での町全体でレベルアップを図る必要がある。

児童生徒の学年別操作習熟目標 (タイピング速度、カメラ活用、インターネット検索等) を掲載した南部町版の情報リテラシー系統表を作成した。引き続き、各学年のレベルに応じた系統表になっているか検証し、児童生徒の情報リテラシー能力が適切にステップアップできる系統表にしていく。

⑪ 入学祝金

* 事業概要

小中学校1年生の保護者に対して、入学を祝福し、入学時における家庭の経済的負担の軽減を図り、児童生徒の健やかな成長を支援することを目的として入学祝金100,000円を支給している。

* 成 果 [評価 5]

令和4年度以前までは、小学1年生の保護者に対し、20,000円を入学祝金として支給していた。令和5年度の入学祝金からは入学祝金を100,000円とし、対象者に中学1年生の保護者を加え、子育て世代へ更なる経済的な支援をすることができた。

【令和5年度入学祝金実績】

小学1年生・・・35名	3,500,000円
中学1年生・・・44名	4,400,000円
合計	79名 7,900,000円

* 課 題

申請から支給までの事務手続きについては、Logo フォームを活用することで、事務手続きを円滑かつ効率的に進められ、DX の推進が図れることから、従来のやり方を見直す必要がある。

⑫ 中学部活動の地域移行について

* 事業概要

令和4年12月に示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」では、学校運動部活動の地域移行は、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することを目指すもの、とされている。そして、まずは、休日における学校部活動の地域移行を進めるため、令和5年度から令和7年度までの3年間を、改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととされている。そのため、本町では、休日における学校部活動の地域移行を関係者と協議し推進する。

* 成果 [評価 1]

休日における学校部活動の地域移行を念頭に、これまで、国・県又は他の自治体の状況を把握するため研修や視察に参加するとともに、中学校と教育委員会学校教育課、生涯学習課での協議をはじめている。令和5年度は関係者協議を一回実施した。

* 課題

課題として、地域移行への保護者の理解、指導者の人材確保や報酬のこと、教員の兼職兼業のこと、顧問と指導者間での指導方針の違いがある場合の対応、地域クラブの運営費や活動時間、参加者が加入する保険や活動時の責任の所在、など多くの事項が課題としてあげられ、本町では具体的な方策やスケジュールは検討段階にある。

また、必要な予算としては、制度広報を行う経費や、手引書に記載されているような地域移行の準備協議会を設置した場合には協議会の運営経費が必要になる。また、現在も男女バレーボール部で外部指導者を設置しているが、他の部活動で同じように指導者を設置した場合は、指導者謝金も必要となり予算を計上しなければならない。今後は、町が中心となって、町内の専門性をもつ指導者及び団体の協力を得て連携し、体制整備を推進し、学校と指導者等との調整を行う専門性のあるコーディネーターの設置も検討する。

(2) 学校教育内容の充実

① 町費単独負担教員及び非常勤講師設置事業

* 事業概要

小規模小学校における教務主任の配置（学級担任外）並びに複式学級解消及び中学校におけるきめ細かな教育や教員の免許外教科の解消のため、町費単独負担教員及び非常勤講師を配置し適正な教育指導を行う。

* 成果 [評価 5]

学級編制において県基準による教員配置数を町費単独負担教員で補い、適正な教育指導と円滑な学校運営を図ることができた。

町単教員数：小学校2名、中学校3名（17,153,036円）

非常勤講師：中学校3名（1,641,018円）

事業費：18,794,054円

* 課題

中学校教員は担当教科も関係するため、人材確保が課題となる。また、小学校においては、少人数学級のデメリットを解消する学級運営を行う必要がある。

② 小中学校特別支援教育支援員配置事業

* 事業概要

小・中学校において特別支援学級入級相当ではないが、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活を送るために支援員（非常勤職員）を配置し、必要な支援を行う。

* 成果 [評価 5]

学級担任と支援員との連携により、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対し、状況に応じた適切な支援を行うことができた。また、特別支援学級に入級している児童生徒の交流学級でも同様のサポートをして、円滑な学級運営を図ることができた。

* 課題

今年度は特別支援学級の新規入級者が2名あり、次年度以降も増加することが予想されるため、交流学級での配慮がさらに必要となる。

③ 小中学校外国語指導助手設置事業

* 事業概要

語学指導を行う外国語指導助手(A L T)として、中学校に1名、小学校に1名を配置する形で委託契約を結び、英語を指導している。また、県英語専科教員1名が町内各小学校を巡回指導している。

* 成果 [評価 5]

外国語授業では英語専科の教員とともにA L Tのネイティブな発音を実際に聞きながら覚えることで、英語学習への意欲・関心が向上し、英語を聞く・話すといった基礎的なコミュニケーション能力を高めることにつなげることができた。

令和5年度も昨年度と同じA L Tの配置となり、児童生徒たちとの交流もより深まり英語学習への意欲等が向上した。

* 課題

就学前（幼児期）からの外国語に触れる場を確保することで、小学校入学時から抵抗なく学習が出来ることから、幼保との連携も必要となってくる。

④ 山梨青森南部町児童交流会実施事業

* 事業概要

南部氏の縁に結ばれた、両県南部町児童が、互いの町の歴史や文化、身近な環境などふるさとの特色や学校等を紹介しあい、新しい時代の主役となる子どもたちの交流を深めるため毎年夏休み期間を活用し実施している。

* 成果 [評価 4]

コロナ禍で3年間実施をしていなかったが、令和5年度は実施することができた。開催地は青森県で感染症・熱中症の心配もあったが、青森県側の先生や事務局の配慮もあり大きな事故等も無く実施することができた。

* 課題

令和8年度には、南部地区の睦合小学校と栄小学校の統合が予定されており、学校数が3校から2校に減少することにより、事務局校や引率教諭の負担が大きくなる。

(3) 教育支援センター事業の実施

① 適応指導教室事業

* 事業概要

登校に不安を抱える児童生徒に対し、教員OB等のスタッフが学習の支援などを行い、自立に向けて活動する「チャレンジ教室」を南部町総合センター2階で開所している（平成26年度開設）。チャレンジ教室の開所時間は、基本的には月曜日から金曜日までの午前中である。

* 成果 [評価 4]

参加者は2名で、教室では数学、英語、国語、社会、理科を中心に取り組み、本人の意向に応じた学習支援を行った。また、保護者から不登校に関する教育相談業務を行い、家庭・学校と密接に連携支援する中で、自立に向けた支援を行った。

通室生徒	通室日数	通室期間
2年女子A	46日	令和5年12月～令和6年3月
南部中卒業生男子B	50日	令和5年4月～令和6年3月

* 課題

不登校児童生徒の早期対応に努めるとともに、不登校の背景は集団への不適應、学力不振、友達や教師との人間関係等様々な原因によるものなので、学校、スクールソーシャルワーカー、家庭、教委等関係者が情報を共有し、個々の状況に合った最善の対応を検討する必要がある。また、チャレンジ教室から学校への復帰に努める。

② 教職員の指導力向上研修事業

* 事業概要

夏季休業期間中に町内小中学校の教職員を対象に授業力向上のための研修会を実施している。

* 成果 [評価 -]

令和5年度は、教職員のICT活用指導力の向上として、文部科学省のICT活用教育アドバイザー事務局より講師を派遣していただき、「1人1台端末を活用した授業で意識したいこと」の研修会を行う予定だったが、講師の都合により中止となった。

* 課題

学校のICT活用が急速に進んでいるため、教職員の端末操作方法はもちろんのこと、端末使用に関するマナーやモラル、ルールなどを児童生徒に指導をしていく必要がある。

③ 学力向上対策事業

* 事業概要

学習意欲の高揚と学力向上を図るため、小学4年生～中学3年生を対象に自学自習の場「なんぶ未来塾」を開所している。講師は教員OB等が務め、毎月2回、土曜日に開催している。

*** 成 果 [評価 4]**

未来塾を開催することで、わからないところが理解できるようになり、学習機会の定着、集中力の向上、児童生徒の交流の場としての役割等の一定の成果をあげている。リクエストプリントの配付や講師によるミニ講義等、工夫を凝らした運営を図ることができている。

小学生 13人（延べ187人） 開校回数 22回
中学生 19人（延べ213人） 開校回数 22回

*** 課 題**

児童生徒の参加者が減少傾向にあるため、学校と連携し効果的な運営を模索し、多くの児童生徒が参加できるよう周知を図る。児童生徒へのアンケート結果や講師の先生の意見を取り入れながら、未来塾をより良い学習の場にしていく。無断欠席者についてはFM告知放送での周知や保護者への通知等で呼びかけていく。

④ 特色ある南部町教育事業

*** 事業概要**

特色ある南部町教育として、令和4年度から、1・2年生を対象にALTや英語専科の先生と一緒に楽しみながら英語に触れる時間を学期1回、放課後30分程度開催している。小学校全学年を通して英語活動を行うことは、明治時代のはじめ山梨県で最初に英語の授業が行われた南部町にふさわしい特色のある取組として推進している。

*** 成 果 [評価 4]**

英語をコミュニケーションのツールであることを歌やゲーム等で楽しみながら体験することで、意欲的に学習をすることができた。

*** 課 題**

英語に親しみが持つことができるよう引き続き支援をしていきたい。

⑤ N授業

*** 事業概要**

多くの児童がともに学習し、多様な考えに触れるなど学びを共有し、広める機会として3年生から5年生までを対象に年1回ずつN授業（町内小学校3校の合同授業）を実施している。

*** 成 果 [評価 5]**

3年生では道徳教育として「よわむし太郎」を、4年生では外国語教育として「フルーツパフェを作ろう(What do you want?)」を、5年生では南部町の歴史、自然、伝統等を題材としたふるさとカルタを使用した学習会及びカルタ大会を実施した。3校の児童が一つの授業に参加することで交流も深まり楽しみながら学ぶことができた。

また、N授業の様子が新聞やテレビで取り上げられ、町内外に南部町の特色のある取組をアピールすることができた。

*** 課 題**

教員からの意見や児童の感想を基に、今後もより良い授業となるよう継続していく。

⑥ ICT 教育支援事業

* 事業概要

平成29年7月にタブレットPCを小中学校に導入した。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をねらいとして、ICTを学習活動に利用するため、教育支援センターにICT支援員を配置した。GIGAスクール構想が始まり、4校を巡回して教員の操作技術補助、教材作成、授業支援、情報主任会議の企画・運営、アンケートの実施・分析等を積極的に行っている。

* 成果 [評価 4]

ICT機器を活用した授業の機器操作補助や、教職員へのPC操作指導などの支援を行い、ICT教育による授業改善が進んだ。各校の情報主任担当、教育委員会と連携を図り情報共有することで、少しずつではあるが町全体としてのレベルアップが図れている。

* 課題

GIGAスクール構想が始まり、令和2年度に1人1台の端末が整備され、ICTの本格的活用がますます推進されていく。活用が推進され、持ち帰り学習が増えるほどネットの特性や適切なコミュニケーション方法、情報のリスクなどを学ぶ「情報モラル教育」の充実が重要になっていく。

⑦ 地域学校協働本部事業（学校支援ボランティア）

* 事業概要

地域住民が小中学校の教育活動に学校と一体となって関わることで、学校教育の充実を図るための事業として平成29年度から実施している。

南部町教育支援センター内に「地域学校協働本部」を置き、学校と地域をつなぐコーディネーターを1名兼務で配置している。コーディネーターは学校のニーズの把握、学校支援ボランティアの登録、学校の求めに応じた学校支援ボランティアの連絡調整と派遣の役割を担っている。

* 成果 [評価 4]

30名以上の地域住民が「学校支援ボランティア」とし、本の読み聞かせ、授業補助、草刈り、植木の剪定等の学校教育活動や環境整備の支援に携わっていただき、『地域とともにある学校』として学校教育の充実が図られ、教職員の負担軽減にもつながっている。

* 課題

多くの方が学校支援ボランティアとして学校の教育活動に支援していただけるよう、広く周知活動を行い、人材確保に努める。

2. 生涯学習の充実（生涯学習課）

① 生涯学習の推進

* 事業概要

各種講座・教室・事業を通じて、町民が学習する機会を提供する。

* 成 果 [評価 4]

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月に5類へ移行したことを受け、感染対策を緩和し、アルカディアフェスタ、はたちのつどい等年間予定事業を開催した。

【アルカディアフェスタ2023】

令和5年10月15日（日）にアルカディア南部総合公園多目的広場において、「きたえよう心と体 広げよう笑顔の輪」をスローガンに、あらゆるライフステージの町民が集い、生涯にわたる学習意欲の促進と、健康増進への関心を高める日として開催した。

生涯学習の推進として、大型かるた大会、家庭の日・あいさつ標語表彰を行った。

【歴史文化特別講演会】

多くの大河ドラマの時代考証を担当されている静岡大学名誉教授の小和田哲男氏を招き、「徳川家康の知られざる人間像に迫る」と題し令和5年10月9日（月・祝）に歴史文化特別講演会を開催した。家康が戦国の世をどう生き抜いてきたのか、甲斐の戦国大名武田信玄との関わりなども含めての講演で、158人の来場があった。

【はたちのつどい】

令和4年4月1日から民法改正によって「成人を迎える年＝20歳」ではなくなったため、「成人式」に代わる名称を「はたちのつどい」と変更している。

令和6年1月6日（土）に文化ホールにおいて、対象者70名（男性41名、女性29名）を祝福する式典を開催した。

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け感染対策は緩和した。入り口での検温は行わず、マスク着用も参加者の意思を尊重し自由とした。対象者同士の再会の場になるとともに地域への愛着と20歳を迎えた者としての自覚を導く機会の提供がより一層できた。

* 課 題

各種講座・教室・事業は、幅広い年齢層を対象とするなかで、感染症対策を行ったうえでの実施に努める。

各個人が日常生活のなかに文化・芸術・郷土愛が常態化するよう啓発活動に努めるなど、年間を通じて継続的に事業を発信していくことが重要である。

また、はたちのつどいの内容については、一生に一度しかない晴れ舞台の日を提供することを基本に、限られたスタッフや新生活様式のなかで、よりスムーズな運営を行う。

② 青少年教育の推進

* 事業概要

青少年の人間形成において家庭の果たす役割は大きく、特に核家族化が進みつつある現在、個としての家庭ではその役割の発揮に限界がある。

町としても、少年期から青年期にかけ、社会参加活動への機会を提供するための青少年教育を推進する。

一方、一昔前と比べ、青少年を取り巻く環境も大きく変化し、依然青少年を巻き込んだ犯罪やインターネット・SNS を介した事件等は続出している。この背景にはコロナ禍における休日などの過ごし方など環境の変化もあるが、地域における地縁的繋がり希薄化などによる地域の教育力の低下も考えられる。

このため、地域の皆で支えあって青少年の教育や社会問題の解決に取り組まなければならない。町はこれらの活動を支援し、また、相談指導体制の充実を図る。

*** 成 果 [評価 4]**

子どもクラブ連合育成会では、1月26日（金）～28日（日）の新春書道展では、315点の作品を展示し、169名の来場があった。

町民会議では、定期総会と夏季生活指導会議を開催し、冬季生活指導会議はコロナウイルス感染拡大の影響により書面開催とした。会議の中で青少年を支えあうことの必要性や、長期休暇期間において地域のあるべき姿について情報共有を行った。

夏季休暇の時期を利用した「家庭の日」作品募集事業は、予定どおりポスター・標語・作文それぞれのジャンルにおいて募集した。入賞作品27点については、アルカディアフェスタ2023において表彰し、文化祭で展示した。

「あいさつ運動強化事業」として、南部町内に在住・在勤している方を対象に、あいさつ運動標語を募集した。295作品の応募があり、5名の優秀者をアルカディアフェスタ2023において表彰した。また、あいさつ運動をPRするために、のぼり旗の製作、啓発物品の配付を行い、分庁舎前には啓発のため懸垂幕の設置も行った。

*** 課 題**

家庭教育に関しては、学校教育課や子育て支援課とのすみわけが難しく、例えば相談業務は、その内容によって教育的なことが主であれば学校教育課（教育支援センター）窓口、ファミリーサポートであれば福祉保健課、子育て支援課が窓口となっており、本課の役割としては低い。引き続き、関係課同士の連携を中心に情報共有に努める必要がある。

また、町を挙げて取り組むべきあいさつ運動などは、地域・学校・家庭共通の課題であるため、それぞれの連携体制の構築に努める必要があるが、その手法に関して書面でのやりとり中心の場合、考え方や想いがダイレクトに伝わらず、地域の熱意が冷めてしまう懸念もある。重要度や必要性を判断しながら、地域の在り方についての話し合いの場を持つことを基本に事業を実施していく必要がある。

③ 高齢者教育の推進

*** 事業概要**

高齢化社会においては、高齢者が経済社会の変化に対応していくために絶えず新たな知識や技術を習得する機会が必要とされる。また、学習を通じての豊かさや生きがいの充足が求められることから、積極的な社会参加を果たすことができるような学習と活動の機会と場を提供し、高齢者教育の振興を図る。

*** 成 果 [評価 4]**

学習機会提供の場として「なんぶいきいき大学」と称し、6月から2月まで年間6回、講義や歌など楽しく健康長寿の道を歩めるようなメニューを提供した。

1	6月22日(木)	『開講式と町長講話』 南部町長 佐野和広	活性化センター
2	8月31日(木)	『今こそフレイル予防&塩分濃度測定』 食生活改善推進員のみなさん	活性化センター
3	10月15日(日)	『アルカディアフェスタ2023』	アルカディア 多目的広場
4	10月25日(水)	町外研修	山梨県立富士 湧水の里水族館 忍野八海
5	12月20日(木)	『スマホ・タブレット教室』 万沢集学校	中央公民館
6	2月29日(木)	『閉講式と春待ちコンサート』 リート・アンサンブル ♪ミュール♪	文化ホール

* 課 題

高齢者の社会参加が少なくなっている今日、高齢者世代の趣味も日々変わってきている。ニーズの多様化などもあるが、多くの参加者に興味を持ってもらえるテーマ設定や足を運んでもらうための工夫を行い、新規参加者の増加を目標にしていかなければならない。また、実施にあたっては、高齢者の学習機会が競合しないよう他団体と調整し、場合によっては共催も考慮する必要がある。

3. 文化の振興（生涯学習課）

① 文化財保護事業

* 事業概要

文化財は地域の歴史や文化の成り立ちを理解するうえで、欠くことのできない資産である。現在、国指定1件、県指定18件、町指定48件の指定を受けており、文化財審議会委員を中心に史跡や天然記念物の保護、無形文化財の継承に努める。

また、これら文化財について、情報発信や学習機会の提供など、活用することによって郷土の良さや再発見に努める。

* 成果 [評価 4]

県・町の補助を活用し、国指定文化財1件の火災予防、県指定天然記念物2件の説明看板更新を行い、適切な保存に努めた。埋蔵文化財に関しては、受理2件進達2件合計4件処理を行い、2件の立会い試掘調査を行った。これらの取り組みにより、各種文化財の保存・継承に努めることができた。

また、歴史資料室において、「一家小伝」を読み下し、製本化を行った。引き続き「落穂拾遺二」の読み下し作業を実施している。

* 課題

町には文化財専門の知識を有する職員がいないため、県の専門機関、文化財保護審議委員及び所有者等との協力体制を強化し、文化財の保護に努める必要がある。

文化財の活用という点に関しては実施不足の面も多いため、南部氏・近藤喜則の両史料館等を手始めに情報発信しながら、生涯学習の場での活用を探求していく。あわせて、案内看板作成やマップの更新、デジタル化などは、予算化を検討していく必要がある。

生涯学習の分野におけるふるさと教育推進にあたっては、町の文化財の保存・活用と密接な関係があるため、引き続き「ふるさとカルタ」を活用した事業を研究していく、併せて「南部学」などに関連付けた事業展開も検討していきたい。

② 文化協会等育成事業

* 事業概要

平成30年度から、新南部町文化協会として活動を開始している。“創りだそう ぐらしの中に 輝きを”をキャッチフレーズに、町民の文化活動への支援、芸術文化へ触れる機会の提供、文化祭の開催を通し、文化振興への貢献を図っていく。

* 成果 [評価 4]

文化祭芸能発表部門は、インターネットライブ配信を併用し、有観客で開催することができた。

コロナ禍において活動が十分にできなかった団体が数多くあるなか、15の団体による舞踊、コーラス等が発表された。

また、展示発表会は活性化センターで開催し、子どもからお年寄りまで数多くの作品が並び、来場者の目を楽しませることができた。

芸術文化へ触れる機会の提供ということで、7月に劇団四季によるミュージカル「ライオンキング」の鑑賞会、12月に蒲郡・岡崎方面への県外研修を実施した。

* 課 題

先人たちの努力により南部町文化協会を中心とした町民の自主的な文化活動が浸透しているが、所属員の高齢化は進んでいる。また、コロナ収束後の活動再開期に向けて、各個人がより豊かな人生を送るため、様々な文化芸術や交流活動を推進していく必要がある。今後とも関係者との情報の共有化や連携を図り、町民の文化芸術活動が衰退しない工夫が必要である。あわせて、本町の自然や人情に惹かれ都会から移住してきた芸術家との交流を深め、新たな文化の創造の可能性を探っていく。

4.公民館・文化ホール事業（生涯学習課）

① 各種教室、講座等の主催事業

* 事業概要

中央公民館では、身近で多様な学習機会の提供を目的に、町民を対象とした公民館講座や各種教室を開催している。

【連続講座】

教 室 名	時期・実施回数	受講者数
羊毛フェルト教室	月 1 回 (3 回)	4 人
フックドラグ教室	月 1 回 (3 回)	3 人
クラフトかごバッグ教室	月 2 回 (2 回)	7 人
スマホ・タブレット教室	月 1 回 追加講座 (3 回) 1 回	18 人
陶芸教室	月 1 回 (9 回)	7 人
パン作り教室	月 1 回 (8 回)	15 人
ガーデニング教室	月 1 回 (6 回)	14 人
ガーデニング教室～春の花～	月 1 回 (2 回)	9 人

【単発講座】

教 室 名	実施日	受講者数
多肉植物教室	5 月 30 日 (火)	4 人
おやこ料理教室①	7 月 22 日 (土)	19 人
おやこ料理教室②	10 月 28 日 (土)	14 人
おやこ料理教室③	2 月 3 日 (土)	24 人

* 成 果 [評価 4]

公民館講座は、「地域住民の生きがいがづくりの入口」という生涯学習の一つの役割を確立する過程にある。一部の受講者は、講座をきっかけにサークルに参加したり、趣味として継続する動きが見られる。

本年度は新型コロナウイルス感染症の 5 類移行をうけ、コロナ前の定員に近づけて開講した。

感染対策は緩和し受講者の自主性に委ねたが、最後まで受講生の中から体調不良者は出なかった。

全ての行事が自粛傾向にあったコロナ禍を脱し学習できる機会を前年度と比較して増やすことができた。

* 課 題

受講者が以前から受講しているリピーターが多く、新規受講者の開拓が課題である。

公民館本来の役割である「学びを通じた仲間との交流」や「地域に内在する課題への気づき」に繋がられているとは言えず、これら目的を果たすまでの道のりは遠い。

このため、講座という「学びの場」の提供に加えて、講座で学んだことを活かす具体的なビジョンを提示することで、「地域住民の交流」「地域リーダーの育成」に繋がるような、主体的な学習活動を支援していく必要がある。

② 南部町文化ホール事業

* 事業概要

芸術文化に関する住民の意識の啓発、教養の向上を目的とし、映画会、寄席などの自主事業を実施する。実施にあたっては、文化ホール運営委員会を開催する。

また、地域社会の振興に寄与するため、南部町民文化祭芸能発表会、内船歌舞伎の定期公演等へ協力し、その他ホールの貸館等を行う。

【自主事業】

事業名	開催日	入場数	販売収入額
宮西達也のミラクルワールドシアター	12月17日(日)	310人	170,000円
なんぶシネマ	3月9日(土)	134人	40,400円
なんぶ演芸【中止】	—	—人	0円
計	—	444人	210,400円

【有料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
富士川林業振興会総会	7月28日(金)	100人	5,230円
札幌市立米里中学校吹奏楽部練習	10月6日(金)	50人	16,750円
南部町森林組合総会	2月22日(木)	92人	8,375円
TAKAKO 音楽教室	3月30日(土)	80人	23,010円
計		322人	53,365円

【無料貸館事業】

事業名	開催日	入場数	使用料
文化協会各部発表会・練習等	4月7日(金)他	1,010人	無料
小学校芸術鑑賞会	5月2日(火)	280人	無料
文化協会総会他(会議・講演会)	7月12日(水)他	488人	無料
さちかぜ号	7月21日(金)	60人	無料
文化祭	11月5日(日)	268人	無料
はたちのつどい	1月6日(土)	120人	無料
南部町消防団出初式	1月7日(日)	100人	無料
いきいき大学	2月29日(木)	50人	無料
計		2,376人	

* 成果 [評価 4]

自主事業については、新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月に5類へ移行したことを受け、感染対策を緩和し、「宮西達也ミラクルワールドシアター」と「なんぶシネマ」を開催することができた。今後はホールを拠点とした文化芸術の素晴らしさを町民に伝える機会の提供が必要である。

また、文化ホール運営委員会を開催し、委員同士の情報共有や、どうあるべきかといった議論が行えた。

貸館事業については、感染対策を緩和し開館に努めた。

*** 課 題**

自主事業については、新生活様式に則しながらできるだけ集客の見込めるコンテンツの提供が何よりも求められるため、演目・日程ともに文化ホール運営委員の意見を取り入れつつ、企画立案していくことが肝要である。

貸館については、発表会・練習など、本来の文化芸術に関する利用が昨年度に比べ多くなった。

経年による施設の更新も課題である。稼働率と管理のバランスを取りながら、より良い利用形態を模索し、地域の文化振興に貢献していきたい。

5. アルカディア文化館（生涯学習課）

(1) 南部図書館・富沢図書館

* 事業概要

地域の情報拠点、学習の拠点となる図書館は、町民の学習要求の多様化、高度化に伴い、一般書はもとより専門書、学術書、地域資料、さらには公共図書館と学校図書館を結ぶネットワークの活用を図り、学習にあった多種多様な資料の収集及び提供を目的とする。

【南部図書館】

- 開館日数： 289日
- 来館者数： 9,678人
- 貸し出し冊数： 39,754冊
- 主催教室事業

事業名	開催数	参加者数
乳幼児・幼児・リトミック教室	28回	233人
お話し会・読書指導（小学生以下対象）	8回	133人
講座・教室・その他	8回	314人

【富沢図書館】

- 開館日数： 289日
- 来館者数： 2,166人
- 貸し出し冊数： 7,924冊

* 成果 [評価 4]

本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけ、町民の継続した読書活動を推進するため、引き続き感染症対策を講じ、安心して図書館の利用が出来るよう努めた。

教室イベント等は、引き続き感染症対策を講じ継続して開催することができた。

* 課題

利用者のニーズにあった図書を提供するため、リクエスト等の情報の収集に努めるとともに、住民の読書支持率向上のための方策を検討していく。また、蔵書情報のWEB公開やオンラインによる予約システム等の新しい生活様式に則した図書館機能を検討し、住民にとってより利用しやすい図書館運営に努める。

(2) 町立美術館

* 事業概要

町民が歴史と文化に興味を持ち、芸術向上の場として親しみやすい美術館運営を考慮し、郷土が誇る芸術家「近藤浩一路」の功績を称え、その作品を美術館に展示する。

水墨画美術館として幅広く認知され、町内芸術家の情報発信、交流の場となるような事業を展開する。

○開館日数：299日

○企画展

- ・岩合光昭写真展「ねこのとけい」 7月15日(土)～ 8月27日(日) 1,888人
- ・守家勤油絵展 10月 1日(日)～ 10月29日(日) 232人
- ・竹久夢二展 11月 1日(水)～ 11月30日(木) 721人
- ・宮西達也 原画展 12月16日(土)～ 2月18日(日) 1,085人
- ・近藤正寛写真展 2月23日(土)～ 3月20日(木) 632人
- ・早蕨作品展 3月24日(日)～ 5月 1日(水) 414人
(※3月分 85人)

○貸館

- ・パッチワークサークル
向日葵作品展 5月 3日(水)～ 5月14日(日) 354人

○常設展

- ・近藤浩一路作品 (通年開催、年4回展示替え) 227人
(企画展共通入場者2,841人は含まない)

*** 成 果 [評価 5]**

本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行をうけ、感染症対策を継続し、美術館としては企画展も中止することなく開催出来た。

また、継続して開催していることで多くの方に芸術に触れ合う機会の提供ができ、入場者数等における実績が過去最高となった。

*** 課 題**

有名な作家ほど町民より町外者の方が多く来館する傾向がある。より多くの町民の芸術に対する興味や関心を高めるための企画を増やす必要がある。

また、町外者に対しては、WEBやSNSの活用による情報発信を強化し、さらなる来場者数の増加を図る。

6. 生涯スポーツの充実（生涯学習課）

(1) 施設の充実と効果的な活用

① アルカディアスポーツセンター

○営業日数：304日

○入館者数：31,440人 1件

	利用者数	収入金額
内訳 プール・ジム	16,528人	(3,434,960円)
レッスン	10,978人	(6,586,000円)
体育館	3,934人	(553,910円)
		10,574,870円
興行販売（キッチンカー）1件		1,000円
		10,575,870円

○その他の施設：30,894人

	利用者数	収入金額
内訳 テニスコート	2,319人	(403,330円)
野球場	5,558人	(503,360円)
運動場	3,308人	(68,940円)
富沢野球場	2,448人	(198,050円)
小中学校施設	16,544人	(615,840円)
柔剣道場	717人	(37,400円)
		1,826,920円

○主要教室事業

	申込者数	事業収入
☆親子体操教室	31人	108,500円
☆シニアトレーニング	158人	553,000円
☆肩・膝・腰の体操教室	29人	101,500円
☆子供体操教室（年少・年中・年長・小1）	89人	311,500円
☆大人初級・上級水泳教室	23人	80,500円
☆ズンバ	58人	290,000円
☆アクアズンバ	35人	175,000円
☆全身シェイプ&体幹強化	61人	335,500円
☆美筋トレーニング	54人	297,000円
☆Let's Jump	64人	352,000円
☆やさしいエアロ	67人	335,000円
☆マットサイエンス	56人	252,000円
☆カラダ整えエクササイズ	33人	148,500円
☆60分満足体操	36人	126,000円
☆ステップ45	40人	200,000円
☆ボディーメイクトレーニング	24人	132,000円
☆朝ヨガ	27人	121,500円
☆スローヨガ	12人	48,000円
☆アクティブヨガ	36人	144,000円
☆リラックスアロマヨガ①	44人	220,000円
☆リラックスアロマヨガ②	44人	220,000円
☆シェイプ&体幹トレーニング	39人	214,500円

☆小学生水泳教室	118人	1,180,000円
☆年中・年長水泳教室	42人	420,000円
☆体操教室（生涯スポーツ係）	28人	112,000円
☆トランポリン教室（生涯スポーツ係）	27人	108,000円

合計 1,275人 6,586,000円

*** 成果 [評価 4]**

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月に5類へ移行したことを受け、感染症対策を緩和したうえでの参加者募集となった。その結果、申し込み者数、事業収入ともに前年を上回った。

*** 課題**

募集形態をコロナ以前の状態に戻し、感染症対策等については、参加者の自主性に委ねる事とした。今後はより多くの参加者を募れるよう、利用者の要望にしっかりと耳を傾け、魅力的な教室事業を展開できるよう努力したい。

② その他施設

*** 事業概要**

社会体育施設・学校体育施設の開放は、各スポーツ協会支部、スポーツ協会専門部、クラブチームの多数に利用されている。

*** 成果 [評価 4]**

社会体育施設についても、新型コロナウイルス感染症の5類移行にともなう運営を行っている。令和4年度に完成したアルカディア南部総合公園多目的広場については、特に土曜、日曜の利用者が多く見受けられ、賑わっている。他の施設についても、中部横断自動車道の開通により町外、県外からの利用者が増えている状況にある。

*** 課題**

アルカディア南部総合公園（スポーツセンター、テニスコート、野球場、運動場、多目的広場）及び社会体育施設は、管理面積が広く、職員数も減少していることから、専門業者を委託し、レベルの高い施設を目指していきたい。また、利用者促進の為、キッチンカーの受け入れなどを積極的に行い、活気あふれる公園を目指していきたい。

(2) スポーツグループの育成とスポーツの生活化

① スポーツ推進委員事業

*** 事業概要**

目 的：町民にスポーツの楽しさ、すばらしさを伝えるとともに、スポーツやレクリエーションの普及振興を図るための指導・助言を行う。

事業費：400千円（スポーツ推進委員会補助金）

事業：1) 軽スポーツ普及事業

トランポリン教室（11回）、体操教室（11回）

2) 各種スポーツ大会等への協力

アルカディアフェスタ2023、第21回駅伝・マラソン大会

チャレンジデー2023

3) 各種研修

定例会（3回）、峡南研修（2回）、県研修（2回）

* 成 果 [評価 4]

スポーツ推進委員22名は、スポーツの普及振興に努めている。中でもトランポリン・体操教室については、毎月一回のペースで指導有資格者を中心に指導ができ、参加者から好評を得た。

町内のイベント等については、アルカディアフェスタ2023をはじめ、駅伝・マラソン大会を4年ぶりに開催し、多くのチーム・参加者のエントリーがあった。

県のスポーツ大会、研究大会についても通常通り実施され、町スポーツ推進委員も参加した。

* 課 題

日頃より、スポーツ推進委員の研修、町主催のイベントへの協力、各種教室事業での指導等へ積極的に参加し、スポーツ活動の推進に取り組んでいる。

② スポーツグループ育成事業

* 事業概要

目 的：町民のスポーツ実施率の向上とスポーツの日常化を目指し、軽スポーツグループの育成を図る。

事 業：「南部リズム会」は平成18年度から自主団体として活動し、毎月1回リズム体操教室を開催している。会員は年度末現在45名。

* 成 果 [評価 5]

南部リズム会は設立から16年が経ち町民の中に定着している。50代から80代までの女性層が中心で生活習慣病予防、体力づくりのほか会員の憩いの場として役割を果たしている。

* 課 題

リズム体操をするだけではなく、南部警察署と協力しての交通安全・防犯活動等の多種多様の活動も活発となっている。なお一層の啓発や事業の推進を図り、スポーツを積極的にしない町民の取り込みを図る。また、会員自身が更に主体的に活動し、運営していく体制を整えていく。

③ スポーツ教室・イベントの開催

* 事業概要

目 的：スポーツを振興し、町民の体力増進・健康を保持するとともに、人と人とのふれあいを育むコミュニティの場として、誰でも楽しめる軽スポーツを中心に教室を開催する。

事業費：教室謝金609千円、サンクスデー9千円

事業

1) 各種教室の開催

教室名	開催日	開催回数	参加者数
ウォーキング教室	11月29日(水)	1回	75人
トランポリン・体操教室	4月～2月	11回・11回	延べ443人
スキー教室 しらかば2 in 1	2月18日(日)	1回	27人
リズム会	4月～3月	12回	延べ340人
ノルディックウォーキング教室	5月～11月	6回	延べ99人

2) スポーツイベント

イベント名	開催日	参加人数
チャレンジデー 2023	5月31日(水)	4,309人
アルカディアフェスタ 2023	10月15日(日)	1,500人
ヴァンフォーレ甲府 サンクスデー	10月20日(金)	23人
ベースボールフェスティバル in 南部	3月17日(日)	25人

* 成果 [評価 4]

日頃からスポーツの体験ができない方に対してのきっかけづくりとして大きな効果があり、各教室とも多くの初心者参加があった。イベント関係は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、全て予定通りに開催が出来てきている。

* 課題

アルカディアフェスタでは、前年度に比べ倍以上の予算がかかっているのに費用対効果がきちんとあらわれていないように思えた。次年度に向けては、削れるところは削り、自分たちで創意工夫して予算がなるべくかからないよう努力をしたい。また、屋外イベントについては、天候に左右されるためこの対応が難しいところである。

(3) 組織の充実と連携

①スポーツ協会

* 事業概要

目的：生涯スポーツを推進するにはスポーツ協会と町行政とが緊密な連携を図る必要がある。

事業：スポーツ協会は25支部、15専門部、6スポーツ少年団から組織され、教育委員会生涯学習課生涯スポーツ係が、庶務会計を担当しスポーツ振興を図っている。競技スポーツとしての一面と生涯スポーツの一面を有し、県体育祭への出場、駅伝・マラソン大会の開催、各種スポーツ教室の開催を年間事業としている。特に初心者を対象にしたスポーツ教室では各種目の普及を目指している。行政とも緊密な連携と協力体制が図られている。

事業費： 3, 700千円 (スポーツ協会補助金)

事業名	開催日	参加人数
体育功労者・特別表彰式	10月15日(日)	124人
第21回南部町駅伝マラソン大会	1月28日(日)	58人

*** 成果 [評価 3]**

町とスポーツ協会の連携が図られスポーツ事業が実施されている。令和元年度から町民体育祭の開催は見送られ、駅伝・マラソン大会が町の一大行事として位置づけられる。新型コロナウイルス感染症の影響で長らく開催を見送っていたが、令和5年度は4年ぶりに開催され、町内外から多くの選手が参加し、盛況な大会となった。

*** 課題**

アルカディアフェスタの内容について、企画からみんなで意見を出し合い、費用を抑えながらより多くの方に楽しんでもらえるようなものにする。今後も多くの町民に参加してもらい、幅広い層にアピールできるイベントとなるよう努める。

部員の減少等により活動機会が減少している専門部においては、新規部員の取り込みのために体験教室を開催し、部員の確保を図る。